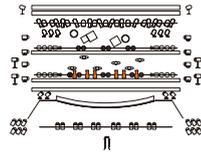


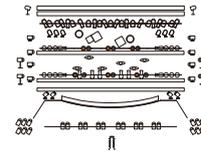


⑤サスペンションライトのみの照明(A)

舞台上部からの演技面の明かりで、写真のような演技者を浮び上げらせるスポットライティング(A)と、演技面全体を明るくするフラッドライティング(B)があります。

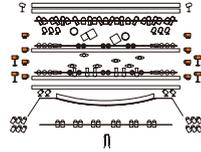


⑤サスペンションライトのみの照明(B)

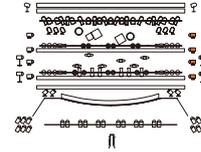


⑥ステージサイドスポットライトのみの照明(A)

ステージサイドスポットは、スポットライトをスタンド類に取り付けて、ステージの両袖の客席からは見えない所に置き、真横からの照明をするための照明手法の一つで、通常は、光り洩れの少ない平凸レンズスポットをよく使います。写真でも分かるように、ステージの床面に影が出ないため、人物のみが浮び上がり、立体感を持った独特な雰囲気演出することができます。さらにステージサイドスポットを片側だけにすると劇的な演出効果を得ることが出来ます(B)

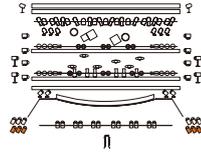


⑥ステージサイドスポットライトのみの照明(B)

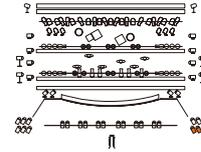


⑦フロントサイドスポットライトのみの照明(A)

客席前方の両サイドに設置し、舞台を前側面から投光します。シーリングライトよりも立体感が得ます。シーリングライトと同じように、投光角が小さくなるほど背景に影ができ、また直接水平幕に光が当たると、水平照明の効果も損ないます。フロントサイドスポットを片側だけにすると(B)、立体感があり、演技者の表情が見える照明をつくれます。

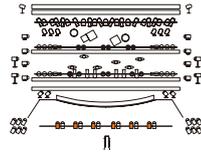


⑦フロントサイドスポットライトのみの照明(B)



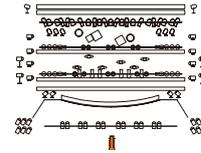
⑧シーリングスポットライトのみの照明

客席上方からのスポットライトで観客席から見やすい照明ですが、平板な印象を受けやすい照明です。



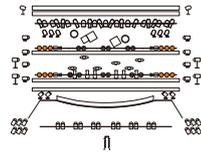
⑨センターピンスポットライトのみの照明

客席の最後部から、他の照明とは関係なく、特定の演技者などを追う(フォロー)場合に、全身あるいは胸部以上を投射するスポットライトで、輪郭のハッキリとした照明が得られます。



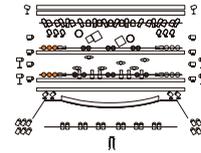
⑩ななめ#Wによる演出(A)

ななめうえ(横上方)からのライトは人物やセットを立体的に見せる効果があります。



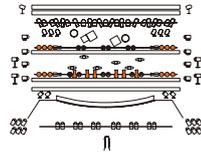
⑩ななめ#Wによる演出(B)

片方のみにと安定感のある上に劇的な効果が望めます。



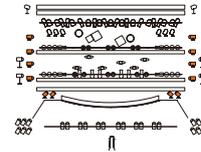
⑩ななめ#Wによる演出(C)

さらにサスを加えると人物が浮き上がりさらに立体感が強くなります。

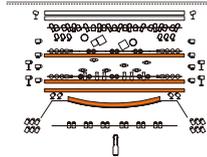


⑪フットスポットによる照明・下手#64、上手#88、ステージサイド#87

スポットライトを使って、フットライトのような使い方をし、対象物の影を故意に背景に出すことによる効果を狙った手法で、上手・下手で色を違えて、より一層の効果を狙ったものです。フットスポットの効果により、幻想的な雰囲気がよく演出された、インパクトの強いライティングとなっています。

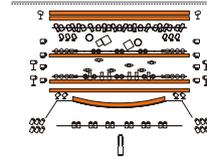


■ 組合せ照明1



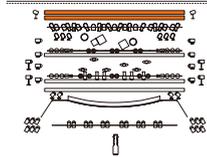
⑫ボーダー、フットによる照明

両器具とも元来均等な照明を与える器具ですから、舞台上の演技者面や物に対しては影の少ない均等な照明になります。平板な照明を要求される場合、いわゆる面明かりの効果や装束、衣装への均等な照明効果が必要な場合は、見逃せない照明です。ただ、バックの影や明るさ、ハイライトや立体感のなさは物足りなさを感じさせます。



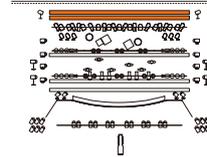
⑬ボーダー、フット、アッパー、ローアによる照明

舞台全体が明るく平坦な照明状態が得られ、フットライトによる水平幕への不要な影も解消しています。ただ、舞台全体を眺めた時に、ハイライトがなく見せ場のない照明になりますし、舞台の客席寄り部分の光が不足しますので注意が必要です。

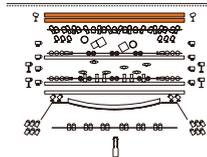


⑭アッパー、ローアによる照明

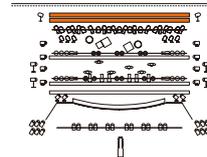
水平幕の上部、下部より同一色光による照明をしますと、写真のような均一なバック照明を得ることができ影絵のような効果を得ることが出来ます。また、色光と調光を用いることにより日中・朝焼け・夜・その他の描写など光の変化が自由に再現できます。



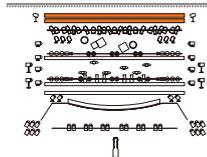
⑭アッパー、ローアによる照明(バリエーション1)



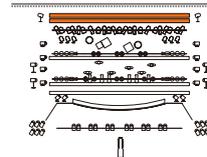
⑭アッパー、ローアによる照明(バリエーション2)



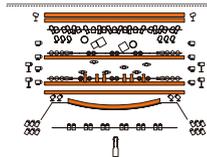
⑭アッパー、ローアによる照明(バリエーション3)



⑭アッパー、ローアによる照明(バリエーション4)

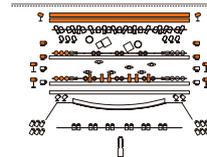


⑭アッパー、ローアによる照明(バリエーション5)



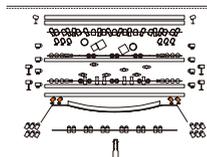
⑮ボーダー、フット、アッパー、ローア、サスによる照明

⑬の演技者面に、サスペンションスポットライト⑩を加えますと、観客の目を止める位置ができ、舞台全体が生きてきます。しかし、全体に鉛直面照度が不足しがちで、客席から見た演技者の前明かりが少なく、物足りなさを感じさせます。

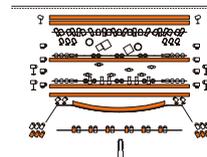


⑯アッパー#72、ローア#59+#72、サス#W、#67、ステージサイド#W、タッチライト#57

サスペンションライトの#67は、下手斜め上方からベース照明とし全体を明るく演出しています。#Wの単独サスペンションライトは、調光によりレベルを下げてステージサイドスポットとの調和を計っています。色光の中に弱く#Wを混ぜ込み、柔らかい雰囲気演出しています。

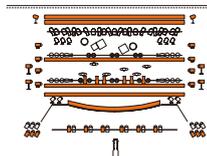


⑰フットスポットによる照明・下手#57、上手#31



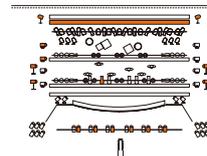
⑱ボーダー、フット、アッパー、ローア、シーリング、フロントによる照明

⑮にシーリングスポットとフロントサイドスポットを加えた照明例です。舞台上の演技者に対しては十分な明るさの照明はできていますが、舞台全体が明るく平坦な照明状態になります。使用時は調光・色光を考慮する必要があります。



⑲ボーダー、フット、アッパー、ローア、サス、ステージサイド、シーリング、フロントサイドによる照明

⑮にサスペンションライトとステージサイドスポットを加えています。いままでの中で最良ですが、実際では調光により各々の光のバランスをとり、立体感を出します。



⑳ローア#22、サスNo.2#W、ステージサイド下手#35、上手#45、シーリング#38、タッチライト#44

情熱的な赤をバックにしたシーンです。アッパー・水平幕ライトを使わずローア・水平幕ライトのみで、調光によりレベルを下げて、抑えたい表現を狙っています。全体照明として、シーリングスポットの#38が舞台全体を染めてソフトな表現となっています。ステージサイドスポットには、明るめなオレンジとイエローで柔らかな光の重ね合わせを演出しています。セットのタッチライトには、同じくライトイエローでトーンを統一しています。今回、奥の人物のみ、#Wの単独サスペンションライトを調光して使っていますが、鮮かに浮かび上がっており、ドラマティックな演出となっています。

■ 組合せ照明2

 <p>㉑ローア、サス、シーリング、ステージサイド、センターピン、調光による照明 背景をローア・ホリゾンタライトのみで、しかも、調光により減光し、そのバランスで前明かりのシーリングスポットや、ベース照明のサスペンションライトの明るさを調節し、雰囲気重視した照明を意図したものです。単独サスペンションライトとステージサイドスポットにより、人物の立体感を表現し、メインとなる登場人物のみを、センターピンスポットライトでフォローした、ドラマチックなライティングです。</p>	 <p>㉒アッパー#71、ローア#72、サス#W、#77、タッチライト#57 ローア#72、アッパーホリゾンタライトの#71が全体のブルーの基調となっています。ベース照明は、サスペンションライトの#77で、演技面をエリア照明しています。前明かりを敢えて使わずに、#Wの単独サスペンションライトを調光によりレベル調節することにより、陰影のハッキリとした、強い主張を持ったライティングとなっています。但し、ブルー色では単調な光の構成となりますので、奥のセットには、ライトグリーンの#57でタッチ照明をし、シンプルながらも、鮮やかな演出となっています。</p>
---	---

■ 効果照明

 <p>㉓パーライトのビームによる照明(A) バックを大黒幕にしてスモークをたいた状態です。パーライトの強い光線が舞台空間を演出しています。パーライト(VN)、サスペンションライト、ステージサイドスポット、ピンスポットを使用しています。(A)</p>	 <p>㉓パーライトのビームによる照明(B) パーライト(VN)床に置き、サスNo.4、地明り#77、フロント#86を使用しています。(B)</p>
 <p>㉓パーライトのビームによる照明(C) パーライト(VN)サスペンションライト&床に置き、ステージサイドスポットを使用しています。(C)</p>	 <p>㉔GOBOによる照明(A) エリアサイドスポットライトにGOBOを挿入することによる演出です。人物やセット・床面にタッチがつかず質感に変化が出、ドラマチックな効果を生み出します。 ・舞台横上方からの照射</p>
 <p>㉔GOBOによる照明(B) ・舞台下手奥上方からの照射</p>	 <p>㉔GOBOによる照明(C) ・舞台上手奥上方からの照射</p>
 <p>㉕GOBOで作る情景演出(A) GOBOを使用することにより、より具体的な状況を演出することが可能です。例えば深夜、家来を連れた二人が某所で密会…(A) 夕嵐迫る戦場で決意する将軍…(B) 幽閉された牢獄で悔恨にふける政治犯…(C)</p>	 <p>㉕GOBOで作る情景演出(B) といったところでしょうか。</p>
 <p>㉕GOBOで作る情景演出(C)</p>	 <p>㉖GOBOのビームによる照明(A) ㉓と同様にバックを大黒幕にしてスモークをたいた状態です。パーライトの強い光線とは違い柔らかな印象を受けます。GOBOのバックライトにピンスポットを加えた状態で、全身(A)と上半身(B)のサイズの違う2パターンを試しました。ピンスポットの照射面積が小さい方がGOBOによる印象が強く感じられます。</p>
 <p>㉖GOBOのビームによる照明(B)</p>	 <p>㉗パーライトとGOBOの両方を使った情景演出 ㉓をベースにパーライトを加えて情景を作りました。さまざまな照明器具を組み合わせることにより、さらに幅の広い照明演出が可能になります。</p>